

## 保護者保育者の皆さまへ

子どもが生まれると、だれもが「丈夫で元気にすくすく」と育ててほしいと願います。

赤ちゃんは、お母さんから病気から守ってくれる免疫をもらって生まれてきます。しかし6か月頃にはお母さんからの免疫もなくなり病気にかかりやすくなります。免疫も体力も十分そなわっていない子どもたちは、風邪などの病気（感染症）に何度もかかりながら、自分の力で病気と闘い免疫をつくっていきます。

保育園は、長時間密接に関わりあう集団生活の場であり多くの病気（感染症）がはやります。

病気が回復していない状態で登園することで、他の子へ感染症を広げてしまうこともあります。

また、集団生活に対応できない状態のこともあります。

保護者にとって子どもが小さいときには、しばしば

子どもの病気で仕事を休むことが多くなり、

仕事が思うようにできない場合があります。

このように保育園は病気にさらされる頻度の多い場所ではありますが、

友達と共に過ごすことで生涯にわたり健康な心と身体を育む

小さな社会生活の場でもあります。

子どもたちは一年一年と着実に丈夫になっていきます。

保育園での毎日が楽しく過ごせるよう“家庭”“保育園”“地域社会”が子どもの病気について共通の理解をもち、最大限の予防策を講じながらあたたかく見守っていきましょう。



## <目次>

保護者保育者の皆さまへ	
子どもの健康と安全を守るために	2
保育園とくすり	3
子どもの症状を見るポイント	4
知っておきたい子どもの病気	16
予防接種	22
保育園における感染症の登園のめやす一覧表	27
救命処置(AED：自動体外式除細動器)	29
すぐに救急車を呼ぶとき	30
歯の健康管理	32
緊急時の対応	36

